

アウトレンジ *Outrange*

牡 鹿毛 2020.4.4生
北海道新冠町 株式会社ノースヒルズ生産
馬主・寺田寿男氏 栗東・大久保龍志厩舎
馬名意味・アウトレンジ戦法より

カリフォルニアネクターUSA系 F4-D

レガーロ 鹿毛 2013	Bernardini 鹿毛 2003	A.P.Indy
		Cara Rafaela
	サンタレジータUSA 鹿毛 2004	Lemon Drop Kid
		Sweet Gold
クイーンパイレーツ 黒鹿毛 2014	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo
		マンファスIRE
	カリフォルニアネクターUSA 鹿毛 2008	Stormy Atlantic
		Absolute Nectar

5代までのインブリード：Kingmambo M3×S4 Seattle Slew S4×S5×M5
Mr.Prospector M4×S5×M5 Lassie Dear S5×S5

INTERVIEW

齋藤慎ディレクター(大山ヒルズ・育成)

素直で乗りやすい優等生でした

こちらに来たのが2歳になってからと少し遅かったですが、古馬になってから良くなるだろうと思っていました。兄のハビは少しやんちゃな馬でしたが、アウトレンジは馬っぷりが良く、性格も素直で乗りやすい優等生でした。いまのダート界には海外でも活躍するような強い馬がたくさんいますが、アウトレンジもいづれそれに続くような活躍を見せてほしいと思います。



T.Mori

「親孝行」に結びつけたい。

昨秋の浦和記念で重賞初制覇を果たした後、名古屋大賞典は7着、ダイオライト記念も6着に終わった本馬だが、2カ月余りの休養を挟み、態勢を立て直されて臨んだこの日は中央の軽いダートで鮮やかに巻き返した。寺田寿男オーナーの所有馬として競走生活を送った父レガーロの希少な初年度産駒(血統登録頭数は2頭の1頭で、JRAに在籍する現役馬は本馬のみ。手中に収めた2つめの勲章をさらに大きな

父レガーロ

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央、地方12戦2勝(全日本2歳優駿J_hI 2着、レパードS_G3着)、19年から供用

〔代表産駒〕アウトレンジ(本馬)

母クイーンパイレーツ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央1戦0勝、24年死亡

ハビ(19 牡父キズナ)中央20戦3勝(鳳雛S・L、平安S_G2着、シリウスS_G2着、ベテルギウスS・L2着、チャンピオンズC_G13着、新潟大賞典_G3着、レパードS_G3着)、地方1戦0勝 ㊞

アウトレンジ 本馬(20 牡父レガーロ)中央12戦6勝(平安S_G、ラジオ日本賞_h、梅田S、みやこS_G2着)、地方3戦1勝(浦和記念J_hII)

獲得総賞金165,495,000円

リトルハビ(21 牡父キズナ)中央3戦3勝 ㊞

クイーンハビ(22 牝父キズナ)中央1戦0勝 ㊞

(23 不受胎)

(24 牝父コントレイル)

祖母カリフォルニアネクターUSA

北米5勝(サントイネスS_G、カリフォルニアブリーダーズチャンピオンS、ビヴァリーJルイスS、バレンタインダンサーS2着、ハーヴェストS2着、カリフォルニアカップジュベナイルフィリーズS2着、キャッツクレイドルS3着)、12年輸入

ダノンアイリス(13 牝父Arch)持込 中央4勝(郡山特別)

クイーンパイレーツ(14 前出)

ダノンフォワード(15 牡父オルフェヴル)中央2勝、地方3勝

ミュアウッズ(17 牝父ダイワメジャー)中央1勝、地方0勝

曾祖母アブソリュートネクター Absolute Nectar

アメリカ産 北米3勝(バレットデビュータントS3着、ミスウッドフォードS3着、トレントンS3着)

カリフォルニアネクターUSA(08 前出)

スイートネクター Sweet Nectar(09 牝父Atticus)北米3勝

スターロッカー Star Rocker(10 牝父Atticus)北米5勝(カリフォルニアカップジュベナイルS3着)

レッドスタート Redstart(12 牝父Blame)北米2勝(クイーンシティオークス)

ハーリーハニー Harlee Honey(13 牝父Harlan's Holiday)北米2勝、ブ

ラックフォーザ Black Forza(リッチモンドS・英_G2)の母

希少な血を持つ5歳馬が混戦に断

帝王賞の前哨戦と位置付けられている平安Sには、前走の川崎記念で復活の勝利を飾ったメイショウハリオが参戦。もつとも、Iを4勝と実績的には断然の存在ながら、59kgの斤量を背負う8歳馬は3番人気の評価にとどまり、マーチSの覇者ブライアンセンズと同じ3着のロードクロノヌが、同じオッズ(単勝4・7倍で1、2番人気を分けた。上位拮抗の様相を呈したレースを制したのは4番人気のアウトレンジ。希少な血を持つ5歳馬が重賞2勝目を挙げ、上半期のダート中距離王決定戦に名乗りをあげた。

未勝利戦から4連勝を飾ってオープン入り、今回が昇級2戦目となる新星

レヴオントウレットが意欲的に飛び出して先手を奪取。朝から降り続く雨のもと、軽いダート(稍重)にゆったりとしたラップを刻んでレースを引っ張る。アウトレンジの松山弘平騎手は3番手の外につけ、ロードクロノヌがその直後を追走。ブライアンセンズは中団、スタートで少し後手を踏んだメイショウハリオは後方で脚を溜め、反撃のタイミングを窺った。

逃げるレヴオントウレットに2番手のマールロックが並びかけた4コーナー。あわせて追撃にかかり、前の2頭に迫った松山騎手は、直線に向くと内ラチ沿いで逃げ粘るレヴオントウレットをかわして先頭に躍り出る。ラスト2分のラップは11秒7ー11秒6。

前々で運び、最後までしっかり伸びたアウトレンジが、外へ持ち出して追い込んだロードクロノヌ以下の反撃を完封し、ゴールに飛び込んだ。

昨秋の浦和記念で重賞初制覇を果たした後、名古屋大賞典は7着、ダイオライト記念も6着に終わった本馬だが、2カ月余りの休養を挟み、態勢を立て直されて臨んだこの日は中央の軽いダートで鮮やかに巻き返した。寺田寿男オーナーの所有馬として競走生活を送った父レガーロの希少な初年度産駒(血統登録頭数は2頭の1頭で、JRAに在籍する現役馬は本馬のみ。手中に収めた2つめの勲章をさらに大きな